人間工学グッドプラクティスデータベースのねらいと活用・展開

○榎原 毅（名古屋市立大学大学院医学研究科）

Perspectives of Ergonomic good practice database as public relations tools
Takeshi EBARA (Nagoya City University, Graduate School of Medical Sciences)

1. はじめに

日本人間工学会広報委員会では、人間工学設計事例の情報発信メディアとして「人間工学グッドプラクティスデータベース（図1）」の公開準備をすすめている。グッドプラクティス（Good practice; 以下GPと略す）とは、「良好実践、良好事例」のことであり、人間工学的に設計された製品事例や、労働条件・環境を人間の諸特性に適合させた職場改善事例、バリアフリー・ユニバーサルデザイン導入による生活しやすいまちづくり事例、リスクマネジメント視点による組織人間工学事例など、その対象は幅広い。以下に、本GPデータベースの検討経緯やねらい、概略、今後の展開についてまとめた。

2. GP データベースの検討経緯とねらい

第17期広報委員会（文末参照）では、学会広報の果たすべき社会的責任と社会貢献の観点から、情報発信・情報交換のあり方についてこれまで検討を進めてきた。「人間工学」という学問・用語は、近年一般の方にも普及しつつある。しかし一方で、「製品開発現場において人間工学応用に関する必要性の認識やコンセンサスが得られない」、「中小事業所における安全衛生活動においてどのように職場改善活動を行えばよいかかわからない」といった声も耳にする。そこで、人間工学の具体的な実践事例・応用分野例などの情報を、誰もが簡単に情報入手できる手段を提供することが必要との認識に立ち、広報委員会にてGPデータベース構想を検討してきた。GPデータベースの主なねらいは次の通りである。

1. 「人間工学には良い商品、良い実践がたくさんある」ということを社会へ発信し、人間工学初学者、学生、一般の方など多くの方に人間工学の魅力を知ってもらうこと
2. 設計・開発部門に対し人間工学の必要性を働きかけ、人間工学導入製品の開発を促すこと

図1 人間工学グッドプラクティスデータベース

<http://www.ergonomics.jp/DB/>

表1 GP データベースの主な想定ユーザ

- ・人間工学初学者および人間工学に関心のある方
- ・企業内において、製品開発・製品設計に従事されている方
- ・企業内において、安全衛生に関する業務（産業保健スタッフなど）に従事されている方
- ・まちづくりなど、公共空間における政策立案（官公庁・地方自治体など）に従事されている方
- ・人に優しいものづくり・まちづくりに関する非営利団体（NPO/NGO）における実務者
- ・高等教育機関において、人間工学を指導している教員など
- ・研究所などで人間工学に関する研究に従事している方

3. 人間工学専門家・実務者間の情報交換を促進し、人間工学ニーズ創出に貢献すること
4. 職場改善のための創意工夫や現場の知恵を集約し、企業間での良好事例の水平展開を可能にする仕組みを提供すること
5. 事例を登録頂く企業にとっては、企業広報の一環として利用できること（職場改善活動や人間工学導入を積極的に行っている企業として、社会にアピールできる）

3. GP データベースの仕様

GPデータベースは、「Ergonomic DESIGN」および「Ergonomic GOOD PRACTICE」の2部門で構成されている。「DESIGN」部門は主に製品設計、商品開発に関するグッドプラクティスであり、ハードウェア、ソフトウェアのいずれも含む（例えば、握りやすく疲れにくいボールペン、人間の動線を考慮したシステムキッチン、アクセシビリティ配慮のwebデザイン、ユーザビリティ重視のソフトウェアなど）。「GOOD PRACTICE」部門は主に職場に於ける人間工学改善事例・良好実践を対象としている（例えば、製造現場やオフィスを快適にすることや安全で働きやすくするための人間工学対策をはじめ、街づくりにおけるユニバーサルデザインによる改善実践例など）。各部門の事例掲載項目を表2に、データベース事例画面サンプルを図2に示す。

4. GP データベースの運用と今後の展開

GPデータベースは、2008年6月より運用開始される。それに先立ち、2008年4月末まで第1期事例公募を行った。その結果を基に事例内容の検討などを行い、2008年7月以降に第2期募集を行う予定である（詳しい応募方法については、随時webを更新しているのでそちらをご覧ください）。会員・非会員を問わず応募可能なので、広く関係各位へ周知頂ければ幸いである（ただし原則として認定人間工学専門家1名の推薦が必要）。

また、人間工学の更なる普及・啓発を促進するために、データベース登録事例を対象とした表彰制度についても、日本人間工学会表彰委員会と検討する。

5. さいごに

人間工学の普及のために、多くの皆様からの事例登録のご協力をお願い致します。GPデータベースに関するご意見、ご提案などについて、お気軽に広報委員会(koho@ergonomics.jp)までお問い合わせ下さい。

【人間工学グッドプラクティスデータベース】

<http://www.ergonomics.jp/DB/>

表2 GP データベースの事例掲載項目

仕様
人間工学設計部門(ergonomic DESIGN) <ul style="list-style-type: none"> ■製品名 ■製品写真 ■製品の概略説明(600字以内): <ul style="list-style-type: none"> ①製品概要、②人間工学的配慮視点の説明 ◇開発秘話、開発担当者のほなし(400字以内) ◇製品評価結果レポートなど ◇特許・意匠登録番号 ◇連絡先(担当者、共同研究者名、e-mail、URLなど) ■推薦者(認定人間工学専門家1名)
人間工学改善事例部門(ergonomic GOOD PRACTICE) <ul style="list-style-type: none"> ■事例タイトル ■改善前-改善後の写真 ■改善事例の概略説明(600字以内): <ul style="list-style-type: none"> ①改善前後の概要、②人間工学的配慮視点の説明 ③期待される効果など ◇事例評価結果レポートなど ◇連絡先(担当者、共同研究者名、e-mail、URLなど) ■推薦者(認定人間工学専門家1名)

(■:必須項目、◇:自由記入項目)

図2 GP データベース事例画面(試作版)

【第17期(2007. 4~2010. 3)広報委員会メンバー】

委員長	酒井 一博	(財)労働科学研究所
幹事	大内 啓子	(財)日本色彩研究所
委員	岩切 一幸	(独)労働安全衛生総合研究所
	榎原 毅	名古屋市立大学大学院
	下村 義弘	千葉大学
	松田 文子	(財)労働科学研究所
	吉武 良治	日本アイ・ビー・エム(株)

(五十音順、敬略称)